

ポケットジャーナル



★NPO法人神戸グランドアンカーアクション始まる

ミナト神戸が世界に門戸を開いて一世紀半。今や、まちは成長から成熟への大転換機を迎えて。そんな中、新しい価値観やシステムを創造する事業を立ち上げたNPO法人神戸グランドアンカー(村上和子理事長)は、ミナト神戸を活かし、次世代に向けての文化と経済活動の発展、まちの賑わいと活性の実現に向けて、国土交通省をはじめ行政との力強いパートナー・シップのもと、多彩な企画を実施していく。



村上和子理事長

■お問い合わせ/NPO法人神戸グランドアンカー
神戸市中央区東町122
日本真珠会館3F
TEL 078-3332-3186
FAX 078-3332-3185



ル・サロン初入選
おぼろ月夜(源氏)

中突堤中央ターミナル『かもめりあ』1F特設会場において、第1回KOBEみどり大賞の作品展を開催。

この実りある活動にご支援いただけの方は、個人会員年会費1万円・企業会員2万円(1口)で会員募集中。ぜひご賛同下さいませ。

■日時/毎月1回4木曜
初回6月26日(木)13:00~16:00(ティータイムを含む)
場所/神戸ベイシェラトン&タワーズ21Fトップ・オブ・シェラトンにて受講料/1回1万円(ティー&ケーキ付)
☎ 078-857-7018

誕生日ありがとうございます。『運動のしおり増刊』作りが待っています。おどおどすんな皆の衆(谷川俊太郎)

誕生日ありがとうございます。運動本部
〒650-8790神戸市
中央区中町通4-2-11
上ビルB1
TEL&FAX 078-6012573

★スベシャル・フローラルアート教室開催

北野工房のまち「おし花工房 フローラル」代表のなかみすえさんが、講師をつとめるフローラルアート教室が神戸ペイシェラトン

ホテル&タワーズにて開催。たなかみすえさんの芸術性を追及したおし花の世界は海外からも高く評価され、フランスのル・サロン展にも入選をはたしている。

ホテル特製のホームメイドケーキとともに優雅なティータイムのひとときもあわせて楽しめる。

ホテル歌手小室等の新刊『人生を肯定するもの、それが音楽』を夜一気に読みました。知的障がい者施設音楽青年寮での体験が披露されます。『知的障害』という言いかげ感じ』に同感です。忙しいやら慌ただしいやうな休みでした。開けては『運動のしおり増刊』作りが待っています。



誕生日
ありがとう
運動

誕生日

誕生日

★バー・テンダー・白本一決定!

神戸から世界へ

6月6日(日)の午前11時より、新神戸オリエンタルホテル10F真珠の間において、第31回全国バー・テンダー技能競技大会と第9回全国ジュー

ニア・カクテル・コンペティションが催される。ジャズ生演奏に小曾根実トリオを迎える楽しい企画が盛りだくさん。観戦・試飲・バー・ティ

ン参加1万2千円、観戦・試飲3千円となっているので、一般の方もお気軽にお越しください。

☎ 078-322-1117
(バー・マティニー 飯塚)

花時計



★ 花と緑の回廊づくり」と 「インフィオラータ」

安藤忠雄さんが「参加型のまちづくり」をすすめて、日本中のあちらこちらで「花と緑」が植樹され、元気な町や村によみがえり、すてきな手づくりの景観をつくりだしている。

安藤さんの監修のもとに昨年の五月からスタートした神戸の「花と緑の回廊づくり」が一年を経て、各地区の商店街とまちづくり協議会が、その成果を報告した。

もちろん神戸も手づくりで北野、トアロード、三宮あじさい通り、三宮南、三宮中央通り、旧居留地、鯉川山手、みなと元町、元町商店街、神戸ハーバーランドなどの代表

本中のあちらこちらで「花と緑」が植樹され、元気な町や村によみがえり、すてきな手づくりの景観をつくりだして、

導のもと花や緑の植物が広がっ



★旧居留地に帰つて来たダ

ンディな長澤昭さん

神戸大丸店長の頃、旧居留地界隈をファッショントラウンドづくりに、精力的に活動された長澤昭さんが、十

数年ぶり、江戸町のトウセン神戸ビル3F㈱シービージュの取締役会長として帰神。さっそく訪ねると、「いやー旧居留地はよろし

いわあ。ファッショントリ

ーの仕事をする気分になりますね

え。CESARE PACIOTTI

イタリアの靴メーカーです

が、これからは良質のもの

を、神戸をヘッドオフィス

にして提供していきますの

でよろしく」とにっこり。

ダンディな長澤さんは旧

居留地が良く似合う。おか

えり!

☎ 078-327-5071

て、愛らしく花を咲かせ、花のパワーをもって、美しい

神戸のまちづくりが育まれて

きたようだ。

四月から五月にかけて各地

で開かれた「インフィオラ

ータ」も、北野町では、イタリ

アの発祥のまちジエンツア

ノからの花絵も到着して、女

性デザイナーが来神。

「神さまからの贈りものの花のパワー

をアートで活かして、イタリ

アと日本が友情で結ばれるこ

とは素晴らしい」と話したこ

とが感動的。震災から九年目

は、花神の春だった。

(M・K)

KOBE POST

★須磨・淨徳寺。六十九世宇賀芳樹住職が、永年の本山護寺、

青少年育成、更生保護、寺門興隆の功績により、宗門最高位の一級大僧正に昇補され、伝燈大阿闍梨供界が承認され、檀家總代一同と、昇進祝賀会发起人一向

により、六月十日(木)午後六時より、ポートビアホテル大輪田の間で祝宴を開催されます。当日は高野山真言宗管長資延敏大僧正猊下をお迎えしての祝宴となります。

★園田正和兵庫信用金庫理事長が春の叙勲で旭日小綬章を叙勲されました。祝賀会は六月二十日(金)神戸ポートビアホテルにて行なわれます。

★神戸マイスターで有馬瑞英顧問の太田忠道さんが黄綬褒章を受勲され、七月九日(金)有馬グランドホテルにおいて祝賀会が開かれます。

★甲陽音楽学院(舊内孝憲学院長)が10周年を迎え、「BIN SUMMIT」を世界十ヵ国からバーチャリ音楽大学の提携校十三校に集まり、六月十九日より五日間にわたり開催。六月十九日午後五時半より灘区民ホール五階ホールでレセプションを開く。ラリー・モンロー・バーカー・音楽学準副学長を迎えて三校の代表と共に交流会が。二十二日(日)には午後6時より、同ホールで国際交流コンサートが(無料)。

★第二十九回「二刀流のんべの会」(会長・西正興)が六月十五日(火)午後六時半より、ホテルゴーフル神戸16Fベルゼロナの間で開催。会費一千円。℡ 078-303-5555 日本酒協会・奈良良波酒造廠 お申込ユーハイムコンフェクト会長西正興



重廣恒夫の山歩き教室

(7)

山でバテない為に (エネルギー・水分補給)



登山中のエネルギー消費量や脱水は予想以上に多いのです。したがって行動中食物や水分は積極的に補給する必要があります。

消費エネルギー (Kcal) =

$(6 \sim 9 \text{ Kcal}) \times \text{体重} \times \text{時間}$
で求められ、体重60kgの人は5時間の行動では軽装でも2000Kcal前後消費します。

しかし、我々の身体は非常に丈夫にできており、人体に蓄えられているエネルギー量は脂肪7・4日(但し脂肪は炭水化物が無いとエネルギーに変換されない)、炭水化物は1・5時間といわれています。周りの環境が変化しないとすると飲まず喰わずに1週間、静止状態では1ヶ月前後生存することができます。周りの環境が変化しないと、水分を補給する必要です。しかし2Lの水分補給が必要です。

ただし、塩分補給を怠ると筋肉中の電解質のバランスが崩れ筋肉の痙攣をまねく原因になります。また水の飲みすぎは低ナトリウム血栓で筋の痙攣や意識障害を誘引します。また風雨や寒気などの外的環境の変化に遭遇すると耐久時間は非常に短いものとなります。

エネルギー補給や水分補給を効

物を補給する必要があります。時間ごとに炭水化物を多く含む食事は炭水化物。行動中は最低2時間ごとに炭水化物を多く含む食事を補給する必要があります。

行動中の水分補給は1時間、体重1kgあたり約5cc必要です。オーバーヒートは疲労の根源で体温が42度で死にいたします。脱水が引き起こす熱疲労、熱射病、熱痙攣、血栓、むくみなどいずれも行動を大きく阻害するもので最低でも脱水を体重の2%以下にとどめる必要があります。飲水量 (g) =

$5 \times \text{体重} \times \text{時間} - 20 \times \text{体重}$ で求められこれからの季節は最低でも1から2Lの水分補給が必要です。

休憩時間もある程度の区切りは必要ですが、30分、1時間に一度休むということを厳格に守る必要は無く、その日の体調にあわせてフレキシブルに休みましょう。また休憩時間には必ず地図で現在地の確認を行なう事を習慣付け、計画どおり進捗しているかどうかを再確認することも安全登山の第一歩です。

(しげひろつねお)
1947年山口県徳山市生まれ。71年オニツカ(現アシックス)に入社。73年エバーレンで世界最高点(当時)へ到達、80年、77年、日本人としてK2に初登頂、80年、北壁から的新ルートでショモラングマに登頂。96年、日本百名山を13日で連続踏破しました。

率よくおこなうには、休憩時に少しの食べ物と飲物を飲むようにしましょう。食べ物はアンパンやムースなど適していますが、自分自身で炭水化物を多く含む食べやすい食品を日頃から見つけておきましょう。飲物に関してはどんなものでもよいのですが、スポーツドリンクにはナトリウムも含まれておらず、痙攣の防止にも効果があります。水しか飲めないという人は1日に2~3個の梅干で塩分補給をしましょう。

休憩時間もある程度の区切りは必要ですが、30分、1時間に一度休むということを厳格に守る必要は無く、その日の体調にあわせてフレキシブルに休みましょう。また休憩時間には必ず地図で現在地の確認を行なう事を習慣付け、計画どおり進捗しているかどうかを再確認することも安全登山の第一歩です。

六甲山の全山縦走
諏訪山公園～六甲山頂ケーブル駅



第8回六甲山トレッキングツアー（4／21）

秋から始まり冬、春と3つの季節の六甲山を歩いてきました。落ち葉の上をパリッパリッと音を立てながら歩く秋もとても好きでしたが、鮮やかな緑をどこまでも見渡せる春にも感動しました。春の山の明るさがとてもよかったです。こうやって季節を近くで感じられるのも山歩きの楽しさだと実感しました。単にトレーニング目的で始めたトレッキングでしたが、今ではそれだけではない、これは奥が深いぞと思いはじめています。

春の明るさと小鳥の心地よいさえりのおかげで今回のコースもなんとかクリアできました。前半は鍋蓋山が難関でした。アップダウンが激しかったです。そして、摩耶山手前の岩場。かなり登りこたえのあるコースでした。息切れしながらも、景色を楽しみ、花を楽しみ、一緒に歩くみなさんと「いーね、いーね」と言い合いながら歩けたのが本当にうれしかったです。最高の一日でした。

若畑 みのり

海 船 港

日本初寄港クリスタル・セレニティ乗船記④
文・上川庄二郎



■かみかわ しょうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。



九 神戸の歓迎は？
【船内の歓迎行事】

市長以下歓迎側と船長以下船側の面々が壇上に登壇してセレモニーが始まる。乗船客の関心も高いのだろう。何時ものナイトショーの時より座席が埋まっている。

先ず矢田市長から船長に神戸港初入港の記念プレートを贈呈。次いで、雛の節句に因んで、ケース入りの雛人形が贈られ、乗客代表二人には、神戸祭りの法被が贈られた。お返しに、船長から船のプレートを矢田市長に贈呈。

次いで、矢田市長の歓迎の挨拶。神戸は美しいまちであるだけでもなく神戸も世界的に有名だ、などと抜け目なく神戸の宣伝を入れた挨拶で、外国人だけでなく日本人乗客からも大変好評だったのは嬉しいことだ。今回乗船されていた作家の阿川弘之さんも聞いておられたはずだから、どこかで文章にされるかもしれない。

船長の答礼では、お世辞も入つていてことだらうが、神戸は世界一の港だ、これからも機会があれば何回でも神戸に寄航したいと言つて市長以下の出迎え陣の胸をくすぐった。

第二部は、ピンクで揃いの和服姿の女性による琴の演奏から始まった。最初は、日本の伝統曲、さくらさくら。みんなしんみりと聞き入っている。これからが、外国人向けのレパートリーで、峠の我が家、スワニーハー、オーランダ、草競馬で締めたのはいい趣向だった。みんな、もう感激して一緒になつて口ずさみ、会場は一つになつた。演奏が終わつて割れるような拍手。次いで、輪田鼓の皆さんによる太鼓の演奏。パフォーマンスたっぷりのスピード感溢れる演技、そのお腹の底まで響く太鼓の音。これがまた会場をシーンと静ませ、演技が終わるや否やこれまた割れるような拍手の渦。

また出航時には、夕闇迫る中、岸壁から赤い大きな提灯を掲げて見送つたことが強く印象に残つたようだ。いずれにしても、今回の歓送迎行事は大成功だったと思う。日本人の乗船客も外国人以上に堪能していたようだ。今日のこの気持ちを忘れずに、これからもういった歓送迎行事を大切にして欲しいと思う。これが、ホスピタリティの証なんだから…。

しかし、若干の不満をいうとすれば、この歓送迎行事を市や市の関係団体だけの行事に終わらせることが、商工会議所や地元商店街、市民団体も巻き込んだ歓送迎行事にして欲しいということである。

十 エピローグ

下船して、ポートアイランドの北公園に回ってみる。

クリスタル・セレニティの雄姿を撮ろうと立ち寄ったのだが、10人余りの人が三脚を立てて狙っている。しかし、ここは足場が悪く一般の人が数多く立ち寄れる場所ではない。中突堤であれば、周辺は平素から多くの人が集まる場所であり広い範囲から眺望することができる。ここならもっと多くの人を呼べるはず。やはり、基本的に四突の周囲はその条件を満たしていない。

さて、神戸以降の各港での歓送迎はどんなものだったのだろう。何人かの方からの情報をまとめてみると、名古屋港の歓迎行事は、バントンワラーの華麗な演技、歓送は、花火で締められたというから中々のものだ。ただ、出航が16時30分とまだ明るい時間帯だったこともあって、色あせた花火になってしまったということらしい。乗船客も「見えないよ！」とがっかり気味だったとのこと。少し残念な結果だったようだ。

横浜は、さすがに大きしたものだ。歓迎行事もさることながら、新聞報道によると新装なった大桟橋にこの船を一目見ようと6万人もの市民が見物にやってきたと。折から、地下鉄みなとみらい線の開業人気も重なったのだろうが、実際にこの光景を見た人の話では、凄い人だつたというのだから間違ひなさそうだ。この人出自分が、いかなる歓迎行事よりも大きなイベントであり、何よりの歓迎の意思表示である。

それに引き換え、神戸港では、入港時に見学にやつてきた市民は横浜港とは雲泥の差で、300人とも4

00人とも言われているが、船側から見ていた私の目でも、やはりそんなものだったなあと思う。

これは、クルーの人口とかの差だけではなく、四突客船バースのロケーションがいまいちなのに対し、横浜港のあの大桟橋の屋上プロムナードが何といっても魅力がある。神戸でも、中突堤を客船バースにすれば、ハーバーランドからメリケンパーク一帯は、スケールでは横浜の大桟橋界隈ほどには及ばないものの、元町や旧居留地にかけてのダウンタウンに近い巷の雰囲気は、神戸港が勝るとも決して劣らない。

最後に少し整理してみよう。若干繰り返しになるが、この歓送迎行事が市や市の関係団体だけの行事に終わっていたのでは駄目だということである。地元経済界や商店街、市民団体も巻き込んだ歓送迎行事に盛り上げなければ意味がない。横浜のように、多くの市民に、もっともっと港に接し港を愛するようになってもらわなければ、港を真の観光資源として育ててゆくのは難しい。「近者説 遠者来」、行政側が一人踊っていても市民はついてこない。市民一人ひとりに、港は自分たちのものであるという認識が芽生えてこない限り、こうした歓送迎行事はその場限りの空回りに終わってしまう。

どうやら、この辺りが私の今回のクリスタル・セレニティ乗船記の落ちになつたようだ。今からでも遅くはない。華麗なクルーズ船が入港したら、せめて1万人ぐらいの市民が見物にやってくるような魅力ある神戸港にしたいものである。

(完)



「謎の写楽」が映画になつた！

中右瑛

謡の浮世絵師・東洲斎写楽を主人公とした映画『写

樂』（一九九五）がお目見得した。かつて何度も映画化が試みられたが、難題や謎の部分が多く、叶えられることができなかつたが、それが実現したのである。

映画の中の写楽と北斎。さて？誰がその役を演じるのか？興味深々。

映画の『写楽』を企画したのは俳優のフランキー堺さん。TVドラマ『私は貝になりたい』（一九五八）などの名作に出演し、映画、TV、舞台など大活躍のフランキーさんが写楽の映画化に執念を燃やしたのは理由があつた。

四十数年前、フランキーさんは異色の名作として誇り高い『幕末太陽伝』（一九五七）で映画デビュー。

その折の川島雄三監督が、コミカルでユニークな風貌のフランキーさんと写楽とを結びつけ、映画化を思いついた。ところがその後、川島監督は急死。この企画は宙に浮いてしまつたのである。

残念がつたフランキーさんは、その後もずーっと写楽への熱き想いがたち切れず写楽研究を重ね。『写楽道行』（一九八六・文芸春秋社刊）なる小説を書いた

評価を得ている。

もちろん出演もし、川島監督の果せなかつた夢を実現すべく、情熱をつき込んでいるのである。

監督は『はなれ瞽女おりん』（一九七八）、『瀬戸内の少年野球団』（一九八四）の映画で知られた篠田正浩さん。日本のヌーベルバーグの旗手として『心中天網島』（一九六九）、『鎌の権三』（一九八六）などの時代物も得意としたベテラン。数々の映画賞を受賞し高い人気があり、日本映画界を代表する俳優である。



「謎の絵師写楽の華麗なる道行」

写楽に夢中になっていた男が、寛政時代へタイムスリップ。そこで見たものは……

写楽研究二十数年の著者が描く不思議な小説世界

文芸春秋社

「写楽」では、下端の歌舞伎役者で、劇中、トンボ（宙返り）で走るハードな役柄のため、吹き替えなしでやれる真田さんが起用されたのである。

フランキーさんは、この映画では重要な脇役にまわ

り、写楽や北斎、歌麿を売り出した出版元の萬屋重三郎に扮する。

萬屋に出入りするピックなアーチストたちの内、喜多川歌麿役は個性派の佐野史郎さん。激情と狂気のキャラクターを熱演する。

若き北斎には新人の永沢俊矢さん。元モデル、端正なマスクと長身で逞しい肉体美を誇る大型新人である。



映画『写楽』の1シーン

中央・岩下志麻さん演じる大道芸人おかん
右・真田広之の歌舞伎役者の写楽

大北斎の若き日、野生的で熱情の気性の鉄砲を、魅力的に表現する。

その他、写楽のカギを握る人物・十返舎一九には片岡鶴太郎さん。

女優陣には、大道芸人集団の女ボスおかんに岩下志麻さん。写楽に心を寄せる若いおいらん花里には映画初出演の葉月里緒菜さんら多彩で芸達者な俳優が顔を揃える。

写楽は歌舞伎役者で、ひょんなことから事件に巻き込まれて、吉原遊女と深い仲になるという恋ものがたり。

封建の暗い時代。腐敗政治と政商との絡みや退廃文化を背景に、アーチストたちの苦悩、町人のバイタリティなど単なるラブロマンスに終つてはいない。脚本は皆川博子女史。

主役の真田広之と葉月里緒菜が、この映画出演がきっかけとなり、私生活で不倫スキンシップを巻き起したことは既にご承知であろう。

さまざまな話題を集めて、この映画は完成したのである。映画は「みろくの里」（広島県）、「金丸座」（高松讀岐）、ロケがふんだんに盛られ、吉原遊郭、萬屋店、芝居小屋などの江戸情緒があふれ、江戸の雰囲気が見事に再現されていた。

特に「金丸座」ロケの歌舞伎シーンの幻想的な映像は見事である。

最終ロケ撮影は金丸座で、私はエキストラとして参加したのである。

ドーラン塗つて、チヨン髷姿で、カメラの前に立つ。ドキドキ、ソワソワ：初めての珍体験談は次回で…。

■ 中右 横（なかう・えい）

抽象画家。浮世絵・夢ニエッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数

りんの玉

浅黄あさき

斑いんどう

△作家とおる

絵・犬童いんどう
徹とおる

万緑もまぶしい五月が終わり、梅雨の季節がやつてしまひました。郊外では田に水が張られ、虫もちらほら光る頃——。さて、いきなり漢字ばかりを並べますが、どうかご容赦下さいますよう。

林鐘(りんしょう) 弥涼暮月(いすずくれつき)
風待月(かぜまちつき) 常夏(じょうか) 小暑(しょうしょ)
涼暮月(すずくれつき) 蝉羽月(せみのはつき) 長夏(ちょうか) 常夏月(どこなつづき)
鳴神月(なるかみつき) 晩夏(ばんか) 松風月(まつかせつき) 水無月・水皆尽月(みなづき) ——。

最後の水無月でおわかりかと思いますが、これすべて六月のことあります。もつとも旧暦の呼び方なんで、雷の鳴る鳴神月だと、ましてや晩夏などは、え、なんですか? なんて感じてしまいますが。でも、それなら水無月というのからしておかしい。小生も昔、毎日毎日うとうしい雨が降り続くこの時期が、なんで水の無い月なのかと思議に思つたものであります。まあ、同じような

ことを考える人はいるもので、水月と書いて「みなづき」と読ませる場合もあるらしい。

旧暦の六月というのは、雷がごろごろと鳴り響いて梅雨が上がる。でもってもう天からの水も尽きたというので、水無月になつたらしいです。似たようなのですが、阪急京都線の大山崎付近に「水無瀬」という駅がある。ところが水が無いどころか、宇治川から淀川へと名を変えようという大河が滔々と流れている。やっぱり、なんですか? と思ったものです。実はこのあたり、昔は水生野(みなせの)と書いたところで、水が無いところか水の生れる土地だったわけで、さる酒造メーカーの工場があるのも、そんな名水を求めてのことであつたんですね。勝手に漢字をあてるといかんぞ、という好例だね。

では、例の手まり歌の六月の段に入りましょう。いくをやらじと止めてこたえりや、つい林鐘に、愛染と涼み祇園のほこほこ饅頭、子供時分はよい夏神樂、過ぎたしるしか、いかい提灯、地黄玉子



で精をつけては、皆お祓いや

林鐘というものは邦樂の音階の名前でもあります

が、ここでは先にもあげたように旧暦六月の異称であります。それに淋症をかけている。淋病のことです。これにかかると、おしつこが出にくくなります。いきなり失礼さんでございますが、イキそうになるのを、ぐっとこらえてがんばつた結果、淋病になっちゃった、というのであります。

ところで六月の行事はと申しますと、六月一日が大阪の愛染祭り、七日からが京の祇園祭、十七日から夏神楽がはじまって、三十日には水無月祓いといつて、京の車折神社をはじめとする神社では夏越の大祓いが、大阪の住吉神社でも数万の灯を照らして住吉御祓いが……と行事が読み込まれております。もちろん旧暦での話ではありますが。愛染とは仏教でいう貪愛染着、すなわちむさぼり愛し、それとにらわれて染まること、つまりは煩惱であります。次にはこほこ餓頭のほこは祇園祭の鉾をあらわすと同時に、男性自身になぞらえていると気がつくと、俄然、面白くなってきます。というのは神楽においても矛をもって踊るんですけど、祇園のほうの鉾に比べたら、神楽の矛なんかは実にかわいいものです。つまり、こんなことを言っているのでしょうかね。

子供時分は元気なもんで、夏でもしゃんしゃんがんばれたもんだが、ついついやり過ぎちゃったせいか、でかくはなつたけどまるで提灯みたいにだらんと元気がありません。こうなりや地黄丸や生玉子でも飲んで、精をつけてがんばりましょ。

そりや、うがちすぎじゃないの、と思われるかもしれません。メタファとしての提灯は、次のようないい川柳にも顔を出しています。

引きのばし、親父の提灯、笑う婆。

ついでに、もうひとつ。

四つ目屋で隠居、提灯張る気なり。

四つ目屋というものは現代でいえば、大人のおもちゃ屋みたいなもので、無力な男性自身のことを提灯と呼んでいるのですな。

地黄は漢方薬で、これが主成分の地黄丸は今も昔も強壮剤でありますし、玉子もまたしかり。では江戸の頃、どういったものが精をつける食べ物と考えられていたかを井原西鶴の「好色一代男」から拾いますと、ドジョウにゴボウ、ヤマイモに卵、薬だと地黄丸に女喜丹、りんの玉などが出てきます。

さてこの、りんの玉、とはいってなんじやいな。恥ずかしながら小生大いに興味を持ったのは次のような狂歌をみつけたからです。いわく「玉門のうちへ入りつつ行えは、転げまわりてよきりんの玉」どんなんだろうな。興味ある方は、お調べください。別名を「めんれい」というそうですよ。



■浅黄斑（あさぎまだの）推理作家。一九四六年神戸市生まれ。西海ニコータウンに在住。一九九二年小説推理新人賞、「一九九五年日本文芸家クラブ大賞を受賞。日本文芸家協会、日本推理作家協会などに所属するとともに、日本文芸家クラブ関西支部長。「さよなら風さえ吹きすぎる」「ちよんがれ西鶴」「走る死体」「神戸・真夏の雪祭り殺人事件」など著書多数。

名前

出石 アカル

繪・菅原 洸人
題字・六車 明峰



迂闊であった。「出石アカル」というベンネームのことである。お恥ずかしい、というほかない。「出石」は家の故郷である。わたしの大好きな町だ。「アカル」は知人の長男の名前である。明と書いて、あかると読む。わたしはそれが面白くてベンネームにもらった。もう十年以上使っているところである。

に飛び込んで来て驚いた。そこでは詳しいことは分からなかつたので、別に調べてみた。すると、阿加流比売（アカルヒメ）とは、出石神社の祭神、天日槍（アメノヒボコ）の最初の妻であり、太陽の光から誕生したという。

アメノヒボコは新羅の王子だったが、美しいアカルヒメに恋をして妻にする。そのアカルヒメが鉄で農具を作る技術を持っていた。アメノヒボコは、それで強力な武器を作ることを思いつき、製法を教えろと迫るのだが、アカルヒメは、武器を

作るのなら駄目だと教えない。そんなことから、やがて仲たがいして、アカルヒメは祖国に帰ると言つて、難波へと去つてしまふ。アメノヒボコは彼女を忘れることが出来ず追いかけて行くのだが、会うことを拒否されて、淡路や播磨など各地を転々とし、やつと出石に落ち着き勢力を蓄え、そこでアカルヒメそくりの美女と再婚することになる。この件も面白いのだが、またの機会に。

ということと、「出石アカル」は、俄然意味を帯びた。恥ずかしながら、この神話を知つていてつけたベンネームではない。偶然である。

アカルヒメは優れた知恵の持ち主で、大変な美女だったという。わたしは密かに満足している。

この調べ事の一端に協力して下さったのが、樋口与宥さん、84歳。元ケーキ作りの職人さん。

このお年でパソコンを自由自在に扱う。アカルヒメのことをもっと調べたいと思っていた時に丁度この人が見えて、検索を頼んだ。するとすぐ翌日に資料をプリントアウトして持つて来て下さった。それで、アカルヒメを祭る神社が大阪の鶴橋にあることも分かった。一度お参りしてこようと思つてゐる。

で、樋口さんの話である。

パソコンで驚いてはいけない。うちの店に来る時は、ロープのように細いタイヤのサイクリング

車に乗つて、赤、黄、紫など、派手な柄のツーリングウェアである。ヘルメットも同じ。近々、琵琶湖を一周してくるという。聞けば十年ほど前には、中国大陆にまで足を伸ばし、何日もかけて五

百キロほど走つて來たと。昔の軍隊時代の思い出の地を訪ねたのだと。驚くばかりの元気さだ。

樋口さん、与宥と書いてカズミと読む。非常に珍しい。だれも読めない。それが、

「小学校の時、同級生に同じ名前の奴がおつて困つたがな。字も読みも一緒や。おまけに誕生日まで偶然と言うより奇跡である。そんな馬鹿な、とき違ひがあつてのことだろうが、とんでもない神主である。

学校で困つただけならまだ良かったが、それだけでは済まなかつた。

「軍隊でえらい目に遭つたがな。上官が点呼する時に、俺のとこで止まつてしまふんや。読めんのや。それだけのことで殴りよるんや。『ややこしい名前つけるな』ゆうて。元の帳面にはふりがながついとる筈やけど、よう覚えよらんのや。そやから、恥かかされた思て腹いせに殴りよるんや。

一べんだけやない、何べんもや。俺がつけた訳やないのに、ホンマ、軍隊ゆうとこは理不尽などござで。それにしても、もう一人の与宥はどうせ思つてゐるやろ。学校出てから会うてないけど、どうせろくな者にはなつとらんやろなあ」

参考文献
・『古代の出石』（出石町立小野小学校）
・『古事記』

いすし・あかる。43年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーヒーカップの耳」（編集工房ノア刊）にて、2002年度第31回ブルーメール賞文学部門受賞。

銭のゆきサムライ

中野 順哉

絵・題字 平田 郁



紺谷安太郎と妻寿美子の経営する神戸オリエンタルホテル内の理髪部「紺谷理容店」に珍客としてやって来た休六。成金大沢大勝の後ろ盾もあって、理髪部の宿舎に寝泊まりすることになった。しかしだだ見学者として居候させるわけにもいかず、紺谷夫妻は考えたあげく、とりあえず休六を「見習い」として扱うこととした。

休六の日課は、早朝の五時半に始まつた。まず飯を炊き、主人や職人たちが顔を洗うための湯を沸かす。その間にトイレ掃除を済ませ、飯が炊き上がったところで職人たちをおこし、安太郎と寿美子、次いで職人たちの給仕をした。その後職人たちが食後の茶を飲んでいる間に、店の床の雑巾がけをして開店の準備をする。休六自身の朝食はその後で「兄弟子」連中の許しを得てからとする。これは戦前の日本ではそれほど珍しくもない「丁稚奉公」の風景であったが、こうすることでこの扱いに困る「珍客」が音をあげて直ぐに出てゆくのではないかと、紺谷夫妻は考えていたのであつた。

ところが二週間経つても、三週間経つても休六は出てゆくどころか徐々に仕事に慣れ、しかも職人の中から「休六の炊いた飯はうまい」という声まで聞こえるようになってきた。そこで更に仕事を増やし、店に出て床を掃いたり、椅子を磨かせたり、客用のタオル、職人たちの白衣、ワイシャツさらに下着まですべてを洗濯させてみると、したのだが平然としている。夜の風呂で職人の背を流させたが応えない。それどころか仕事が増えれば増えるほど休六はいきいきしてくる。

「おい、スミよ。あの男、一体どうなってるんや？ ほんほんかと思うとつたら、大した働きぶりやで。このまま雇うてやってもええのと違うか？」

ある日紺谷安太郎は妻、寿美子に言った。「それはあんたがそう言わはるんやつたら、私も異存はないけれど……」

「けれど？ なんや？」

「氣悪うせんと聞いて下さいな。あの休六という子は：散髪の職人にするにはもったいないような：なんか溢れ出るもんがあるような気がするんです。雇うより、こんな感じで宙ぶらりんにしておく方が、勝手にええ道を見つけることが出来るのと違うかと思うてるんです」

「ほう、えらい惚れ込んでしもうたようやな？ でも職人としての仕事を覚えさせへんのやつたら、どうしておくつもりや。側におくにはそこそこ見え歳してるしなあ：世間体もあるやろ。スミさんこのごろ男をこうて、側においてはるなんて言われたら目もあてられん」

「あほなこと：それよりもちよつと見て欲しいもんが」と言って寿美子は胸元から手紙を一通とりだした。安太郎はそれを受けとつて開けると「こりやまたなんで……」と嘆息を漏らした。

「ということは何か？ 休六が船で会った紳士といふのは、蜂須賀侯爵のことかいな。えらいこちや。」「蜂須賀侯爵」とは蜂須賀正韶、母は徳川慶喜の三女筆子。つまり徳川慶喜にとつては孫に当たる。そのため明治になつてもうけられた

華族制度では第二位の「侯爵」を授けられたので

ある。この人物は昭和に入つて「日本初のアフリカ通」として有名になるのだが、この時期はまだ

スキヤンタルの多い「殿様」として有名であつたようだ。イギリスに留学中であつたが、父親が皇室との縁談を調べ一時帰国を命じた。素直に帰国はしたもの、逆に父親が息子の放蕩ぶりを知ることとなつた。世に言う「蜂須賀の庵嫡騒動」が起きたのが、ちょうどこの時期のことらしい。有馬休六が出会つたのは、馴染みの芸妓を「妻」と称して旅をしている：「破談」の為のデモンストレーションをしていた蜂須賀侯爵ということになる。この事実関係について有馬休六はその手記に

「船上にて紳士に会う。懇ろに世話ををして頂きしも名は明かされず。後日になりて蜂須賀侯爵と判明せり。もはや礼を述べる術なし」と記しているにすぎない。

蜂須賀侯爵は約束を違えることなく、休六の推薦状を紺谷美容室に送つてきたのである。寿美子は推薦状をもう一度丁寧に折りたたむと話を続けた。

「ともかく蜂須賀さんからもこんなに丁寧なお手紙をいただいているわけやし：ちょっと私らも違うこと考えた方がええのと違いますか。休六かて見学したいと言うて来たわけやし：この数週間で何を見たのか、ちょっと話を聞いてみて、それからどうするか考えてみるはどうでしょ？なるほどとこっちが頷けるようやつたら、見学者として気が済むまで勉強してもらら良いし：もし、しようもないことばかり言うようやつたら、ここにいるより大沢さんのところで働く方がええ

と私から説得しましよう」

早速その晩休六は一人の前に呼び出された。休六はあいかわらず例の新調した洋服を着たままで、汚れ仕事をしながらも身なりはいつも整然としていた。寿美子は休六にお茶をすすめた。そして休六がお辞儀をして一口お茶をするのをながめる

と、話を切り出した。

「休六、お前は今日まで数週間見学をしていたわけやから、何か見えてきたのと違うか。ここででの仕事をしながら今見えていることを何でもええから話ををしてみてくれるか。こちらも何か為になるかもしけんからな」

休六は丁寧に湯呑みをテーブルにおくと姿勢を正して目を輝かせた。

「はい。さほど多くのことは分かりませんが、意見を申してもよいと仰るのでしたらお内儀様につ。お店に出るときはその和服にエプロンというのをお止め頂きたく思つております」

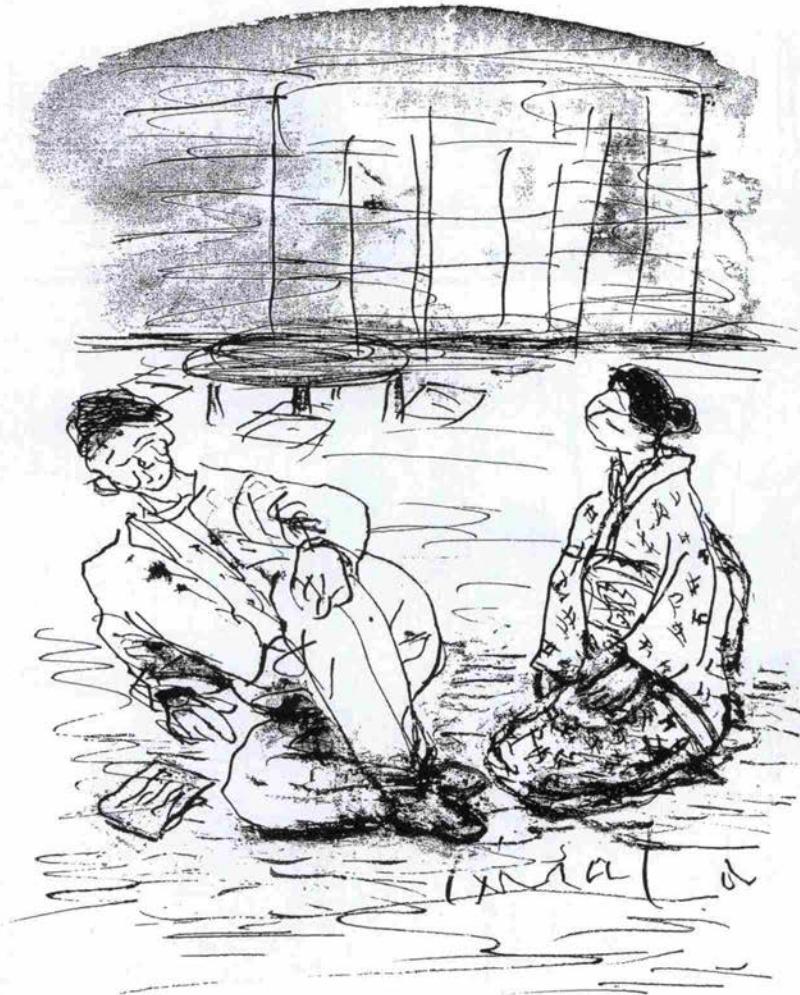
「え？ この格好が良うないのなんか？」

「全くよろしくありません。職人の方々はみなこのホテルに相応しい制服を着ておられます。お内儀にも是非洋服を着て頂きたく思つております」

この数週間、ここでの仕事を見させて頂きました。間違いなくこの仕事はこの国に西洋の文化を教えるものであり、また西洋人に「日本は西洋の仲間入りをした」ということを感じさせる場所でございます。今はこのホテルを使う日本人はごくわずかですが、徐々に食事だけでも利用するホワイドカラーも出てきているようです。この流れはもつと激しくなつてくるでしょう。横津電気鉄道や兵

庫電気軌道などがすぐ近くまで走るようになります。し
たし：「一日かかった場所が一時間で行き来でき
るようになりました。更に箕面有馬電気軌道は山
の中腹に電車を走らせるかわりに住宅街を設け、
家を月賦で販売しているそうではないですか。ま
た昼に来て夜帰るお客様の層を開拓するために大学
を沿線に誘致している。それだけではなく、例の
戦争以来西欧だけでなくロシアなどの東欧の文化

がどうやらこの地にやってきているようですね。
直にこの居留地の文化も変化してゆくのではない
でしょうか。神戸はもっともっと大きくなつてゆ
こうとしています。そしてその先端を走るべき場
所がここだと思うのです。ですからお内儀には是
非洋服をお召しいただきたく思つております」
紺谷夫妻はまさに開いた口がふさがらないとい
う顔でお互いの顔を見合させていた。



「なあ、休六…」しばらくして寿美子は尋ねた。
「お前、それだけのことをここ数週間で学んだのか。色々下働きをさせたが、そんな中でどうやって学んだのや」

「下働き…ですか。皆さんのお世話をすることは、私としては下働きとは考えておりません。あれはご主人や職人の皆さんのが日頃必死で『西洋の顔』

をしていなければならぬ分、それを支える「東洋」を私が担っているのだと思つています。ですからお客様の様子や、時折交わされるお話を耳にしていると、神戸にやって来たばかりの頃はただただ驚いてばかりだったことも、少しずつ理屈



に合うようになってきた：ただそれだけでござります」

「スミ、わしは何やよう分からによくなってきたさかい、もうお前にまかすわ。とにかくええ青年や。ええようにしてやれ。洋服がいるんやったら買うたらええ」と言って安太郎はその場を去つた。あとに残つた寿美子は休六をもつと側に寄せ、洋服に付いたゴミを指でとつてやると小声でいった。

「で：どんな洋服が私に似合う。私洋服は買ったことがないから：ちょっと一緒に見にいってくれるか。ついでお前にも一着買つてあげるわ」

数日後、紺谷寿美子は休六を連れて買い物に出た。彼の見立てで寿美子は一四着の洋服を買った。バスガール風の紺サージに真紅のソフトカラーのものから、明快なグリーンの短いスリーブスカートなど様々なものを選び客の反応を見てみようと言つた。紺谷寿美子は休六の案だった。

「こんなに服を買うのは初めてよ」と困った顔を見せながらも、寿美子はいつになく上機嫌であつた。そしてもうすぐ日が傾きそうではあつたが、約束どおり休六にも服を買ってやろうと彼女は紳士服の店に入ろうとしていた。しかしその時になつて休六はそれを辞退した。

「実はお内儀：私の場合は服よりももっと必要なものがあります」

「おやまあ：で、何が欲しいの」

「お内儀は桐山政太郎という人物をご存じですか。神戸から大阪に電車に乗つて行つて、そこでパンを売つた人間ですよ。それが高じて五年ほ

ど前に神戸屋というパン屋を立ち上げたのですが、今やパンはレストランに限られたものではなく、いずれ日本人にとって一般的な食べ物となるはずです。そこで朝の食卓ですが、米の食事をパンの食事に変えてはどうかと思うのですが……。ところがパンにあう料理となるとまた勉強が必要です。

そこでまずお内儀とパン屋を見に行き、そのあとに西洋料理のことを記した本を探しに行きたいのですが：お付き合いして頂けますでしょうか」

「全くお前という子は：良いでしょ、少し遅くなつてもお店大事の買い物ですから。行きましょう」

そして二人は再び街の中に消えていった。こんな買い物が何度も繰り返され、いつしか休六は現在でいうところの「コーディネイター」として下働きをしながら店に居ることになった。そして半年という時間が瞬く間に過ぎていつた。そんなある日、久々に父への手紙をしたため郵便局へ向かっていた休六は、号外を手にすることになった。

「何だつて：これはえらいことになつた」

休六は手紙を投函するのも忘れて大急ぎで走り出したのだった。この事件が後に彼の運命を大きく変える切っ掛けとなるのだが、そんなことなどまだ誰も知るよしもなかつた。



■ 中野順哉（なかのじゅんや）
一九七〇年生まれ。関西学院大学文学部卒業。
ンス文学科卒業。日本アーティスト協会代表代行。
上方講談の作家でもあり、すでに二十を超える
作品が上演されている。

プレゼントメイト



■プレゼントメイトへのご応募は…

ハガキ・FAXに、希望する
プレゼント名・郵便番号・住所・
氏名・年齢・職業・電話番号・
今月号の感想を明記の上、下記宛先にお送り下さい。
なお、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。
応募宛先〒650-0001 神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル401(有)月刊神戸っ子プレゼント係
TEL. 078-331-2246
FAX. 078-331-2795

★アメリカ古代文明

♪新大陸三千年の響き♪

ミホ・ミュージアムでは、

夏季・秋季特別展「アメリカ古代文明」を開催する。

この招待券をペア5組にプレゼント。

20万年前アフリカに登場

したホモ・サピエンスの中

でも、最も東に進出した集

団はユーラシア大陸を越え、

数万年前よりアメリカ大陸

に波状的に到來したと言わ

れている。今回の展示では、

紀元前18世紀から3千数百

年の時間の広がりと、北は

アリゾナ、南はペルー南部

に及ぶ空間の広がりを持つた、日本初公開の珠玉の品々



戦士像(ペルー・モチエ100BC-AD800)

今年は、金剛宗家の金剛永謹師による「敦盛」。火入れ式につづき、人間国宝の茂山千作らによる狂言

いる。

今年は、金剛宗家の金剛永謹師による「敦盛」。火入れ式につづき、人間国

日4000円)

※雨天の場合は翌27日

会場／大阪城西の丸庭園 演

開(前売一般3300円・当

★第24回大阪城薪能

格調高い文化イベントと

して名高い大阪城薪能も今

年で24回目を数え、夏の夜

を彩る年中行事として、幅

広い年齢層の支持を受けて

■ミホ・ミュージアム／滋賀県甲賀群信楽町桃谷300
☎0748-892-3411
<http://miho.jp>

の80点余りを公開。アメリカ古代文明の産み出した永遠の輝きが堪能できる。

■開催期間／7月17日(土)～8月22日(日)・9月1日(水)～12月15日(水) 10時～17時まで。毎月曜日休館(休日の場合翌日)。

■ミホ・ミュージアム／滋賀県甲賀群信楽町桃谷300
☎0748-892-3411
<http://miho.jp>



「葵上」観世栄夫

「萩大名」、觀世流の觀世栄夫師による「葵上」を上演。

この招待券をペア2組にプレゼントする。

大阪城西の丸庭園の広大な芝生を会場にして、ライ

トアップで映える天守閣を

バックに、各流の宗家や人

間国宝ら能楽界の第一人者

が演じる幽玄の世界にしば

しひたってみてはいかが。

■会期／7月26日(月)18時開

幕なるコメディで終わらせない心に沁みる感動のラストへ

■会場／シーガルホール
(神戸文化小ホール)
<http://www.kobe-reisa.com>

★市民映画劇場「女はみんな生きている」

平凡な主婦と謎の娼婦が男らしく？繰り広げる、笑いあり涙ありの痛快人生ロマン。主婦エレーヌ役にカトリーヌ・フロ。美しいアルジェリア人娼婦ノエミにはラシダ・ブラクニ。監督は、「赤ちゃんに乾杯！」

で世界中を笑いの渦に巻き込んだコリーヌ・セロー。

ラストまで予測できない、息もつかせぬ面白さが観る人すべてを元気にする。

この映画の招待券をペア3組にプレゼント。極上のエンタテインメントをお楽しみに。

■6月11日(金)・12日(土)
①11：00 ②13：30 ③16：00
④19：00 (前売1300円・
当日1500円)

■会場／シーガルホール
(神戸文化小ホール)
<http://www.kobe-reisa.com>



やかです。お庭を楽しむ心のゆとり…大切にしたいですね。

(加古川市・内井薰)

★神戸の映画の灯が…アサヒシネマが閉館、西灘シネマも…。というニュースを聞きショックを受けています。両館とも地道にいい映画を送り出してきたのに…。

せっかく震災を乗り越えたのに…。支えるだけ足繁く通えなかつた私の（あるいは市民の）責任でもあると痛感しています。

(灘区・中西正)

★「野元正」の文学散步を興味深く読ませていただきました。先日NHK大河ドラマの「源義経」のキャストが発表されていましたが、来年は観光スポットとして「須磨寺付近」が注目されそうですね。来年混雑する前に「神戸っ子」を片手に散歩したいと思っております。

(三木市・稻岡奈津子)

★「暮らしのエスプリ」素敵なお写真もキレイ。我が家のお庭も3年目の春。France Madameに分けて頂いた樹木やハーブが色鮮

とつても明るく感じられ、表紙絵も女性の表情が凛として見るものをひきつけます。4月号が若々しい女性で清々しさを感じましたが、それとまた別の味わいがあります。作者の自身の程が伝わって来るようです。

(茅野市・山本幸伸)

【読者の方からのお写真】

★夏に塩屋の浜では若い外人の姿がよく見られました。また少なですが異人館も電車路線の上手にありました。鉢伏山が海に迫っていました。鉢伏山が海に迫っていたので境浜の海水浴場は少し深いようでした。全市の小学校の水泳場となっていました。私の第一神港は東の天神浜にあって当時県二高女と隣り合っていました。神戸では水泳場はここが一番人出が多かったのです。天気のよく晴れた日には対岸の紀州や遠くに友が島が霞んでいることもあります。

いつも海岸の私達に手を振つ

ました。

またすぐ裏手を国鉄のS

しが長く白い煙をたなびかせて走っていました。帽子にあご紐をかけた機関士が、

確かに昭和6年6月に当時

満州国皇帝の溥儀氏ご夫妻

が菊花御紋章入りの國賓列

車で上京されるのを、私達

2年生は駅のホームでお迎えしたのを覚えていました。

(加西市・白水誠三)

塩屋・須磨哀愁(昭和8年7月)

○が一つ入ります。ほかに三丁、七丁、一里(4キロ)の検定に合格すると白帽に変ります。教師は練士と言つて黒帽に白線が入ります。

(加古川市・内井薰)

て、ボーボーボーと汽笛を鳴らしてくれて、私達もこれに応えて皆両手を振つていました。

隣りの須磨駅の上りホー

ムには、少し大きい松の木

が程よく湾曲を見せて屋根

の上に青い枝を出していた

のが印象的でこれが須磨駅

の風格だったでしょうか。

当時は須磨駅付近は自殺の名所で、1970年の「神戸っ子」109号に林田先

生が「須磨哀愁」で書いて

おられますように、駅の線路脇や浜のあちこちに「ちょ

と待て!」の自殺防止用の立札が立つていました。

神戸っ子」109号に林田先

生が「須磨哀愁」で書いて

おられますように、駅の線

路脇や浜のあちこちに「ちょ

と待て!」の自殺防止用の立札が立つていました。



伊井井稻井伊伊井市市伊石石石家井飯飯安有荒新天阿浅浅青青
庭上上田戸藤手村野勢野阪井次植田藤澤川井野部木黃木山木
文芳優勝敏正研幸礼弘田順春亮恒貞新健忠武克満桂泰幸斑隆一重
子郎 巳三視一雄子之子生一 雄吾一雄 郎 子久雄 子 雄
郎

貝鬼小奥奥岡岡緒大太大大王櫻櫻頬梅馬鶴鶴内内上上植上岩今今
原塚田村本田方西田木柏本木川田野殿殿田村羽田島間津井
俊喜俱孝真美し節敏泰本林靖重欽稔英よ麻健邦修康正達瀧奈啓
民八義 穂代げ子郎三美 子夫和 子う里司子二之已司夫加介
郎 を 通 こ 絵 子

小神神上奚櫻キ清木木北木上川嘉上上加嘉嘉鐘金角加加柏梶貝
島戸月静木フ原下下大口林瀬上本根川納納撞木本藤藤木原
知百人公倫紅茂シ桂健章路衛英喜勉頤保庄勝邦毅正啓善義隆健雅一
光店云子男シ子夫菜一代夫二子六也修 雄久一天
会議セテイ園子郎

妹瀬瀬須鉛末新白白下下霜島島直施澤佐佐佐佐佐雀雀柳近小
尾戸戸浪木次谷坂石村村寄田京原方蓮田野藤藤藤藤山部晴藤室
美雄口道草攝説能弘治俊誠子美兄華勝連廉典純悦幸虎昌夫裕豊
智三仁広子紀朗子生文子 那明 寛箕 久子枝俊四吾 重允
子 三郎

中中中中柄寺釣筒陳谷玉田谷田田田多田武龍瀧田高園外曹
内内内右尾井本秋井舞口岡端山辺中中中田崎田口川田橋田池英
力仁巧瑛泰正親桜康臣享か基萬眞聖祐浩國克俊則篠博政明正良生
治義 隆 子お宏里人子史一夫史作明夫司子美和光
郎 る 朗

福福広枚東坂坂原林烟羽橋橋野西新難成並瀧中中長中中中中永長
原富野田村野東仁五崎多本本澤村崎野波瀧川本山村浜野野西田田田澤
初震幸佳衛節慧美和廣悦一覧太泰敬幸還香明唯広友リ友肇勝義崩典昭
子一助子 子子 夫敏子豊 一利四次 梅子人隆一ツ史 成子
郎 郎郎 子

森森森森百元望村村村村宮南光松松増牧堀堀星宝米藤藤藤藤藤
本美治實喬崎永月井松上上園崎和葉本井冬本郁住地花原原本本間田
泰代良勉一俊定美雅友美豪和貴幸恵高兵彦恵子輝院徳正明ハ統莉浩
好子 一 郎正佐彥視徳英子江三 雄三男右 子 子 克子ル紀佳司
衛 門

和渡渡若林木吉吉吉横横容行山山山山大大山山矢安矢
辺柳林同田田田島山山国吉ノ崎藤森和和田口田水崎
憲百二吉輝春定波泰淑政吉勝誠井比三大久久弘和立穏和
昌合生金雄 蔵江巳子夫雄 之登紗恵雄芳千満 久郎和彦
吾 恵子子美 世 子

(五十音順
敬称略)

★43周年を迎えた月刊神戸っ子にいろいろお世話をいただいた方々



〈表紙のことば〉

今年のカレンダーのために制作した羽根のある
横顔のエンピツ素描を上下に並べることで表紙
にしようと思った。

正面の顔は8号の油彩で2年ほど前の作品で
ある。楕円形にして、変化を試みた。

水彩による非形象とうまく融合できればと思
ながら。

2004年6月 石阪春生

